

白藍塾オリジナル

2014入試小論文分析&解答のヒント

2014年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志

●早稲田・スポーツ科学部

今年度は、図を読み取って答える問題。同タイプの問題は白藍塾でも取り組んでいたはずなので、それほど難しくは感じなかっただろう。

図の読み取りそのものは難しくない。1996年から2010年にかけて、何らかの運動をしている人の割合は増えているにもかかわらず、「何らかの競技種目」をやっている人はあまり増えていない。つまり、健康のために軽い運動をする人は増えているが、本格的に競技スポーツに取り組む人は増えていないわけだ。こうした読み取りにもとづいて、「日本における今後のスポーツ振興の課題」について論じることが求められているのだから、「競技スポーツに取り組む人を増やすべきか」を考えるとよいだろう。

とはいえ、スポーツ科学部である以上、「競技スポーツを振興させる必要はない」と答えるわけにはいかないので、イエス・ノー方式にする必要はない。第一部で、図の読み取りを示した上で、「競技スポーツに取り組む人を増やすべきだ」と結論から始め、第二部以下でそれを検証する形にするとよい。第二部では、「確かに、日本の現状では難しい面もある。しかし、増やす必要がある」とまとめ、第三部で、その根拠および、そのための具体的な対策を述べると、うまくまとまるはずだ。

根拠としては、「競技スポーツに取り組む人が増えれば、マイナーなスポーツに対する関心も高まり、それだけ日本のスポーツ界全体の底上げにつながる」「競技スポーツに取り組むことで、競争心や克己心、フェアプレーの精神などが養われる」などが考えられる。また、対策としては、一般の人々が気軽に競技スポーツを楽しめるような環境づくり（競技施設の開放、一人でも参加できる仕組みをつくること）を考えるとよいはずだ。

例年通り、白藍塾で学習してきた受験生にとっては、取り組みやすい問題と言える。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>